

Daily Report (号外)

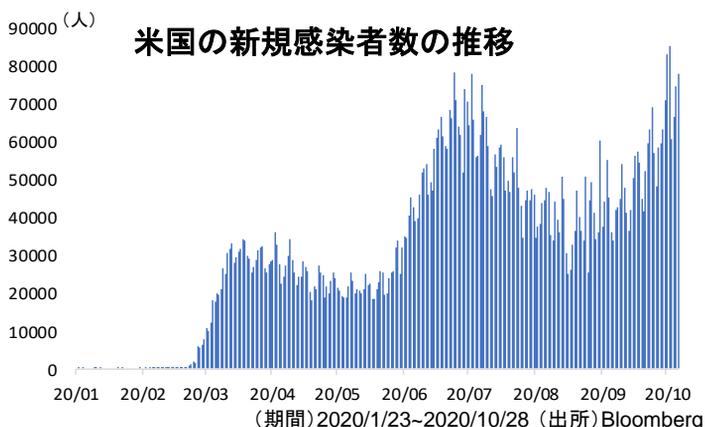
～28日の米国株式市場の急落について～

概要

28日のNYダウ平均は4日続落し、約3か月ぶりの安値となりました。米国の追加経済対策の協議停滞に加え、欧米で新型コロナウイルスの感染拡大が再び深刻化しており、欧州各国で経済活動の制限が表明されたことを受け、世界景気への影響懸念が強まりました。

欧州では新型コロナウイルスの感染増に歯止めがかからず、ドイツは28日に経済活動の一部を制限し、社会的コンタクトを更に制限する方針を表明。11月2日から1か月にわたり、バーやレストランの閉鎖措置を講じる方針です。また、フランスは既に1週間前から夜間外出禁止措置を行い、対象地域を拡大していますが、30日から全土にロックダウンを導入すると発表しました。

米国でも1日当たりの新規感染者が23～24日には8万人を超え、2日連続で過去最高を更新。27日も7万人台と高止まりし、中西部を中心に増加傾向が続いています。また、国立アレルギー・感染症研究所のファウチ所長が新型コロナウイルスのワクチンの実用化は年内ではなく、早くても来年1月頃になるだろうとの発言もマイナス材料視されました。

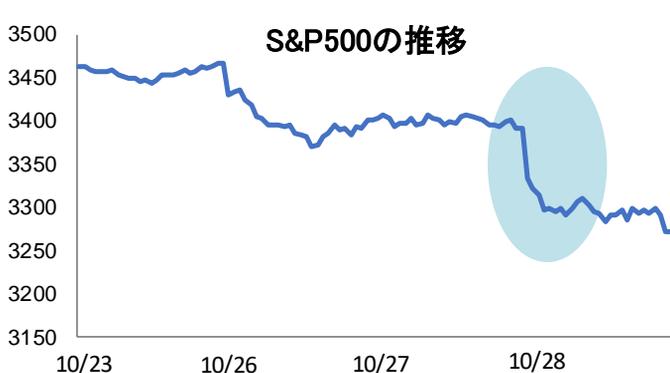


市場の反応

28日の米国株式市場は大幅下落しました。NYダウ平均は4日続落し、前日比943ドル24セント安(▲3.43%)の26,519ドル95セントで終わりました。その他主要指数も、S&P500は前日比▲3.53%、27日まで下落幅が小さかったナスダック総合も同▲3.73%といずれも大幅下落となりました。

S&P500業種別では情報技術が▲4.33%、エネルギーが▲4.22%、コミュニケーション・サービスが▲4.03%と大幅に下落しました。個別銘柄では29日に四半期決算を発表するアップルが▲4.63%、アルファベットが▲5.46%、フェイスブックが▲5.51%と大幅下落したほか、マイクロソフトやアマゾン・ドット・コムも下落しました。

VIX指数は40.28ポイントと40ポイント台へ上昇し、6月中旬以来となる高水準となりました。



(期間)2020/10/23 22:30~2020/10/29 5:00(日本時間) (出所)Bloomberg

米国10年債利回りは米国主要株価指数の大幅下落を受けた買いが見られた一方で、2020年7～9月期の実質国内総生産(GDP)公表を29日に控えて持ち高調整の売りが出たことから、前日比ほぼ横這いの0.77%で引けました。

原油先物市場も新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の制限から、原油需要の低迷が長期化すると観測が広がり、WTI原油先物12月限は前日比▲5.51%の1バレル37.39ドルで取引を終えました。

評価及び今後の見通し

ワクチン開発進展を見こしたやや長い目を見た景気回復期待は持続しているものの、当面は、「感染抑制のための経済活動の制御」と「感染がある程度抑制された後の経済活動の再活性化」が繰り返され、株価もそれにつれた動きになると見えています。欧州では比較的強力な行動制限の導入が株価の下押し要因になるほか、米国では来週に迫る大統領選をめぐる不透明感や追加経済対策の遅れなども株価の重石になると考えます。一方、国内株式は、海外株安の影響は免れないものの、新規感染者数が抑制されており、株価は相対的に底堅い展開も期待できると見えています。米S&P500の下値めどは200日移動平均の3,130ポイント近辺、日経平均株価の下値めどはまずは節目の23,000円、そこを割り込むと200日移動平均の22,000円近辺を想定しています。

(ご参考)今後の主要イベント

日本	米国	欧州
10/28-29: 日銀政策決定会合	11/3: 米大統領選投票開票 11/4-5: FOMC	10/29: ECB理事会

出所: Bloomberg